

例えばこんな幼馴染

こお

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

原作とは違うキャラ達の絡みを楽しんでいただけたらと思います。

目次

例えばこんな幼馴染	1
例えばこんなライバル関係	3

例えばこんな幼馴染

「ちよつとミカー！ やつと見つけた！」

「やあアキじゃないか、おはよう」

「おはよう！…… じゃなくって！ 戦車倉庫にあったアレ、どうしたの？」

「倉庫？」

「戦車だよ戦車、しかもKV-1！ うちの学校にそんなお金無いし…… どころか貰ってきたの？」

「ああ、あれかい？ 風につて運ばれてきたようだね」

「戦車が風に乗って運ばれる訳ないでしょ？ 何か隠し事してる時はいつでもそうやって誤魔化すんだから！」

「おい2人ともー！」

「あつ、ミツコおはよー」

「おはー、何の話してたの？」

「新しい戦車についてミカに聞いてた」

「ああ！ あれねー。確かにいきなり増えててビックリしたよ、本当一体どうしたの……」

「ミツコ？ どうかしたの？」

「…… いや、今日プラウダからミカ宛にこの手紙が届いてたから渡そうと思ったんだけど」

「プラウダ？ つてまさか！ ミツコ貸して！」

「……」

「…… ミカ？」

「なんだいアキ？」

「またプラウダにちよつかい出して！ カツちゃんからの誘いを断つてこっちの学校来たから、会いに行くの気まずいのはわかるけど、向こうに迷惑をかけてこっちに來させるのはやめなって何度も言ったじゃない！」

「それは誤解さアキ、あの戦車は風が」

「誤魔化さない！」

「今日の昼には着くから首洗って待ってなさいだつてさ〜」

「もーカツちゃんもノンちゃんもいい加減怒っちゃうよ？いくら幼稚園からの仲の良い幼馴染でもさ〜」

「私に幼馴染なんて」

「私たち5人と同じ幼稚園でしょ!?!」

「私たちが白組であの2人が赤組だったね〜」

「今日という今日は許さないんだから、ミカ!後で4人でお説教だからね」

「フフ、それは楽しみだね」

「もー!!」

「まあまあ、良いじゃん、せっかく5人で集まれるんだしさ〜」

「ダメだよ!もう何回目かわからないくらいじゃない!ミッコはいつもミカを甘やかすんだから」

(1番甘やかしてるのはアキだと思うけど…)

「それはそうと、お客さまが来るなら用意をしなくてはいけないね2人とも手伝ってくれるかな?」

「良いけど…用意って?」

「中々美味しそうな紅茶とジャムが手に入ったからね。それに合うお菓子でもと思ったのさ」

「あ、ノンナから食材持つて行ったのはガチ説教ですからって追伸書いてあったよ〜」

「…この紅茶とジャムは知人に譲って貰ったのさ。あの2人とは関係無いんじゃないかな?」

「はいダウトー、両方ともプラウダで人気のもだねー」

「ミカ!!言い訳は後でたっぷり聞くからね!さっさと用意行くよ」

「…楽しい一日になりそうだね」

例えばこんなライバル関係

「…今回も私の勝ち、ということだな西住？」

「…貴様の頭の中はどうなっている。この状況を見て、自分が勝っているだと？本当に今まで戦車道をやってきたのか心配になる発言だな安齋？」

「馬鹿を言うな！おまえの戦車から白旗があがり私は白旗が上がっていない。これが勝ちでないなら何か聞きたいな西住？」

「…フラッグ戦で隊長車が大破してもフラッグ車が残れば負けではない。そんなルールもしらないのか安齋？」

「ふふん、作戦は完璧だ！この距離からは応援には行けないが直ぐに我々の勝利を知らせるアナウンスが入る。心しておくんだな西住」

—愛知県戦車道中等部フラッグ車走行不能、西住流戦車中等部の勝利—

「な、なんだってー?!」

「…今回も私の勝ちだな安齋？」

こんにちは

西住みほです。

今日は戦車道の練習試合に来ています。

かなり危なかったですが、何とか勝利を掴むことが出来ました。

本来なら、お姉ちゃんが指揮するチームがここまで追いつめられることは稀なんですけど…

相手が相手なだけに仕方ないのかもしれないかもしれません。

相手チームの隊長さんは安齋千代美さん

血液型B型 9月23日生まれ

全国でも有名な選手で、奇策やトリッキーな作戦を得意としてい

て、相手を混乱させ勝利する事が有名です。

最初に戦ったお姉ちゃんですら、なす術なく敗北してしまいました。

その翌週に直ぐにリベンジして完膚なきまでに叩き潰してましたが……

そこからかな？今みたいなの2人のやりとりが見られる様になったのは。

エリカさんはあんな戦い方は邪道だ！って言ってたけど、私としては密かに憧れてたりします。

……お姉ちゃんが聞いたら怒っちゃうかな？

「くっそー、なんで負けちゃうかなあ」

「お疲れーチョコビ子ー」

「チョコビ子って呼ぶなー！」

「いやー負けちゃったねい」

「相手の隊を分断させて、西住も撃破できたのになあ……」

「まあフラッグ車の撃破失敗しちゃっから仕方ないんじゃない？」

「杏！まさかとは思うが、今日車長で試合に出てないよな？」

「ん？車長と通信手だけど？」

「なんでだよ!？」

「いやー、かあーしまが砲手は任せて下さいって言うからさー」

「あの子は装填手として優秀だから、砲手はおまえがやれって言っただろ!？」

「まーまーいーじゃないーじゃない」

「まさか今日負けたのは……」

「かあーしまが最後フラッグ車への砲撃外したからだね」

「初めて西住に連敗を叩きつけるチャンスだったのに……」

「どんまいチョコビー」

「ええい、もういい！桃と柚子はどこだ？今度からおまえが砲手をやる様に監視を頼んでおく！」

「あの2人ならあっちでかーしまの反省会してるよー」

「… 柚子と反省会か？」

「そだよー」

「… 怖いから後でにしておこう」

「おーこれは柚子に報告だねい」

「ば、馬鹿やめろ！あいつが怒ったらおっかないのは良く知ってるだろ？」

「さーて、どーしようかねー」

「あ、こら待てー！」

「隊長お疲れ様です。」

「お疲れ様」

「エリカに里子か」

「隊長、私の事はエルヴィンと呼んでくれと言っているだろう？」

「あんた、まだそんな事言ってるの…？」

「これは魂の名前だ！軽々しく変える事など出来ん！ロンメル將軍に恥じないためにもな、せっかく考えたんだお前もちゃんと名乗ったらどうだ、ルーデル？」

「それやめなさいって言ってるでしょ！それにあの人はエースパイロットであって、戦車は関係ないじゃない」

「敵の戦車を倒していくことになんら変わりはない、隊長もそう思わないか？」

「… 本人が嫌がつてるんだ、あまり言ってるな、それとおまえをその名前で呼ぶのは將軍の様に多大な戦果をあげたら考えよう」

「本当か！任せてくれ総統閣下！」

「… やめてくれ」